

挑戦の舞台へ

全国大会出場おめでとう



わんぱく相撲

(左から)
長尾晃汰 さん(福良小6年)、干潟里緒奈 さん(福良小6年)
天羽希維 さん(福良小5年)、谷口心咲 さん(榎列小4年)
長尾さんは、第40回わんぱく相撲全国大会(8月10日・東京都)に出場しました。
また、干潟さん、天羽さん、谷口さんは、第6回わんぱく相撲女子全国大会(9月21日・青森県)に出場します。



ソフトテニス

淡路ジュニアソフトテニスクラブ
(左)平野陽大 さん(辰美小6年)
(右)田浦潤人 さん(湊小6年)
平野さん、田浦さんは、第42回全日本小学生ソフトテニス選手権大会(7月31～8月3日・茨城県)に出場しました。



中学相撲

南あわじ相撲道場
苔口遥真 さん(南淡中3年)
苔口さんは、第36回全国都道府県中学生相撲選手権大会(8月3日・大阪府)に出場しました。



硬式野球

生光学園中学校硬式野球部(徳島県)
河野浩之 さん(2年/榎列)
河野さんは、第13回ヤングリーグジュニア選手権大会(8月23～24日・静岡県)に出場しました。

楽しく輝く次へのステップアップ

農業女子AWARD

8月7日、淡路農業技術センターで、市内で活躍する女性農業者の取り組みを表彰する「南あわじ市農業女子 AWARD」が開催されました。
市内の女性農業者による事例発表のほか、徳島県および神戸市で活躍する2人の女性農業者からの講演がありました。審査の結果、木田朱美さん(賀集)に「ソーシャル・インパクト賞」が授与されました。
木田さんは無人直売所「小屋まる」の運営者や地域の営農組合でオペレーターとして活躍するなど、社会や地域に大きな影響を与える活動をしていることが評価されました。
女性農業者の皆さんのさらなる活躍が期待されます。



地域での取り組みを発表する木田朱美さん

戦争の記憶を胸に、平和への誓いを新たに

戦没学徒追悼献花式を挙行

終戦の日の8月15日、若人の広場公園で市主催の戦没学徒追悼献花式が行われました。式典には行政や市遺族会の関係者ら25人が参列。太平洋戦争中、学徒出陣や軍需工場への動員などで亡くなった若者の冥福を祈り、白菊を献花台に供え、戦没学徒の追悼と恒久平和を祈念しました。
市遺族会の多田会長は「式典を機に恒久平和の大切さを胸に刻み、決意を新たにしたい」と述べました。
式典の後、同公園の広場で「萬灯会」が開催され、灯籠の明かりにより、「祈」の文字が浮かび上がっていました。



戦没学徒をしのび献花する守本市長



「遊び学ぶ広場」



ひめゆり学徒隊パネル展示



クラフト体験

あらゆる人がともに生きることができるまちづくりに向けて

じんけんサマーフェスティバル

市では、人権文化に満たされたまちづくりを目的に、推進強調月間となる8月3日に市地区公民館で「じんけんサマーフェスティバル2025」を開催しました。
家族での参加も多く、市人権教育研究協議会による「ひめゆり学徒隊パネル展示」や「クラフト体験」、ガールスカウト兵庫県第95団による「遊び学ぶ広場」などさまざまなワークショップを通して、人権について考えるきっかけとなりました。
人権は身近な課題です。日常生活において人権意識が自然に根付くよう、今後も市では正しい知識を培い、主体的な行動を促す取り組みを推進していきます。



給食を楽しみに待つ児童ら

地元の食材を知る

南あわじの夏を感じる学校給食

学校給食の時間は、子どもたちの学校生活の楽しみのひとつです。市では自慢の地場食材を学校給食で提供し、子どもたちに地元の食材に親しんでもらうことで、地産地消の食育を推進しています。
7月16日、市内の小中学校と市立幼稚園で市内産のハモを使った給食が提供されました。同日、松帆小学校で市教育委員会の担当者が1年生を対象に食育授業を実施。その後、児童らはハモの天ぷらをおいしそうに頬張り、「ふわふわでおいしい」「自分たちが住んでいるところで取れた魚はおいしい」「毎日の給食の時間が楽しみ」と話しました。